■佐野常民 幕末から多大の業績、〈西南戦争〉で戦傷者を官賊の別無く救療する{博愛社}創設し{日本赤十字社}に。

さのつねたみ

英船浦賀来航1822= 肥前国佐賀郡早津江で、佐賀藩士の五男に生まれる。

シボク事件・1828= 6歳：この年、のちに国際赤十字を創始するアンリ=デュナンが誕生。

富籤流行・1830= 8歳：この年、藩主が鍋島直正に替わる。

富籤三十六景1831= 9歳：

鼠小僧磔・1832=10歳：親戚の藩医(外科)佐野常徴の養子となる。

高島砲術・1834=12歳：養父が前藩主に従って江戸へ出たため、生家に預けられ、藩校(弘道館)へ通い始め、

滑稽+人情本 1835=13歳：早くも内生に進むほどの才能を示し、

大塩平八郎乱1837=15歳：江戸の養父のもとへ赴いて、

適塾ホヱン・1838=16歳：佐賀藩の古賀洞庵の塾に入門したが、

畜社の獄・1839=17歳：前藩主が死去したため、養父に従って佐賀に戻り、親戚の松尾家の塾に入り、

勲進帳初演・1840=18歳：

天保改革弾圧1842=20歳：養家に先に養女となってきていた佐賀藩士の娘と結婚後も、外科学の修業を続けるうち、

阿部正弘首座1845=23歳：

孝明天皇・1846=24歳：有為の青年の育成をめざす藩主の命で、京都の広瀬元恭の{時習館}に入門、蘭学を軸に初めて外国の諸学間に触れ、向学心が一気に開花して行く。

・ ・ ・ ・ ・ 1848=26歳：大坂の緒方洪庵の{適塾}に入門、洪庵の"人道"すなわちヒューマンイズムに基づく人間観を身に付け、

北斎没・ ・ ・ 1849=27歳：華岡青洲の開いた紀伊国{春林軒塾}に移った後、江戸の伊東玄朴(象先堂)に入り、まもなく塾頭になる。

国定忠治磔・1850=28歳：在学中、大病を患ったが、玄朴自らの懸命な治療を受けて助かり、

尊徳報徳論・1851=29歳：長崎へ転学を命じられ、途中京都で田中久重父子らに佐賀藩への出仕を誘い、藩主に登用を建言した後、長崎に学び、現地に家塾を開いたが、

万次郎帰国・1852=30歳：田中久重らを得て精練方を設置した藩主の命で、

ペリー来航・1853=31歳：帰藩して精練方主任を命じられ、ついに家業の医者を止め蓄髪、

安政大地震・1855=33歳：*中村奇輔らが願い出ていた日本最初の蒸気機関車の模型製作を監督して成功に導く一方、開設された長崎海軍伝習所へ、藩から48人派遣生の学生長として統率留学、海洋演習で伊能忠敬の地図の精密さに驚嘆、

松下村塾・1856=34歳：養父常徴が死去。

蕃書調所・1857=35歳：精練方で製作した電信機を島津斉彬に贈呈。藩の購入したオランダ船受取りに立会い、海軍創設を建白。

五ヶ国条約・1858=36歳：

安政の大獄・1859=37歳：伝習所閉鎖後も、藩生はなお残留して勉学、大きな成果を挙げて帰藩、三重津海軍学寮の監督となる。

桜田門外変・1860=38歳：江戸へ行き、幕府の観光丸を預かる。以後も、精練方の中心となって、藩の洋式技術開発を進め、

8月18日政変 1863=41歳：この年、国際的救護組織赤十字が創設される。日本最初の蒸気船{凌雲丸}を建造を開始、

薩摩藩士密航1865=43歳：竣工させた。この年のフランス政府から幕府への申入れて、

薩長同盟・1866=44歳：各藩に参加を呼び掛けたパリ万国博覧会に、既に別個に参加決めていた薩摩藩を除き、佐賀藩のみ応じ、

大政奉還・1867=45歳：派遣団の筆頭となって渡仏、第一回国際会議開催を兼ねて設けられた赤十字館を見て感銘を受け、

明治維新・1868=46歳：*軍艦注文交渉や博覧会売残り処分のためオランダを経てロンドン滞在中に<明治維新>となり、急遽帰国。藩の兵制改革を指導後、

初の日刊新聞1870=48歳：兵部省に出仕して兵部少丞となるが、藩閥争いから冤罪で突然免官、工部省出仕となって灯台事業に従事。常民を本名とする。日本に回航された新軍艦は藩から朝廷に献じられて日本海軍の艦船となる。

廃藩置県・1871=49歳：工部少丞から工部大丞兼灯台頭となり、イギリス技師プラントンと今日に至る主要な灯台を次々と建設、

学問のすすめ1872=50歳：新政府がウィーン万国博覧会に対応すべく設けた博覧会御用から事務局副総裁に任じられ、

明治6年政変 1873=51歳：責任者として出張、伊能図を出品して称賛され、再び各国赤十字社の展示を見学、その意義を確信する。

佐賀の乱・1874=52歳：兼務とされたイタリア弁理公使を務め、ウィーンに戻るも肝臓病となって静養した後、帰国し、

初の民間工場1875=53歳：広汎かつ詳細な「澳国博覧会報告書」を作成。元老院議員となる。

この間、提案して博覧会に派遣された技術習生も次々帰国して、工芸・工業の発展に貢献。

三つの反乱・1876=54歳：

西南戦争・1877=55歳：<西南戦争>に際し、官賊の別なく傷病者を救療する戦地病院の創設を構想、同様の行動を起こした大給恒と会見して、連名の嘆願書を、明治天皇はじめ皇族が傷病者の見舞い・看護に腐心するのを見て、華族に檄を飛ばした岩倉具視に提出したが、敵兵をも救済するという点が問題となって保留、そのまま九州に向かわされ、熊本で山県有朋を介して征討総督有栖川宮へ訴え、

大久保暗殺・1878=56歳：*ついに許可を得て{博愛社}を創立、副総長に就任。早速現地活動を開始し、大給が東京で事務所を設立、新聞を伝て寄付を申し出た女性に始まり、宮内省からも下賜金が出た。

琉球処分・1879=57歳：日本の伝統美術衰退を憂う万博参加者を中心に、古美術団体{竜池会}が設立され、会頭に就任。

・ ・ ・ ・ ・ 1880=58歳：大隈重信の後を継いで大蔵卿となり、<西南戦争>後の財政再建に尽力するが、

明治14年政変1881=59歳：<明治十四年の政変>で、大隈が参議を罷免されたのに従い辞任。元老院副議長に就任。

新体詩抄・1882=60歳：博愛社員総会で「博愛社ノ主旨ハ人ノ至性ニ基クノ説」の講義をする。{東京地学協会}で「故伊能忠敬翁事蹟」の講演したのをはじめ、伊能忠敬の顕彰に尽力する。元老院議長を務め、

岩倉具視没・1883=61歳：{大日本私立衛生会}が設立され、初代会頭となる。この間も、部下を赤十字の調査ため派遣、

秩父事件・1884=62歳：ジュネーブ条約加入建議書を政府へ提出する。

内閣発足・1885=63歳：宮中顧問官となる。

帝国大学始・1886=64歳：日本の万国赤十字条約(ジュネーブ条約)加盟が実現するとともに、事務所を新築・{博愛社病院}が開院、

国民之友始・1887=65歳：さらに{国際赤十字}に加盟して{日本赤十字社}となり、初代社長に就任、子爵を授けられ華族となる。日本赤十字社監督のもとに、篤志看護婦人会が発足。{竜池会}が{日本美術協会}となり、会頭に就任。

初の特等条約1888=66歳：<磐梯山噴火>で最初の災害救護事業を実施(初の大学院生ボランティアも登場)。枢密顧問官に就任。

帝国憲法発布1889=67歳：「日本赤十字社看護婦養成規則」を制定。伊能忠敬顕彰碑が実現、

帝国議会始・1890=68歳：内閣勲業博覧会で広報、赤十字看護婦教育を開始。看護婦たちが<トルコ軍艦沈没><天津事件>に続き、

足尾鉾毒始・1891=69歳：<濃尾大地震>の災害救護に大活躍して、一般の認知を受けるようになった。新病院を建設。

大本教・ ・ ・ 1892=70歳：松方正義内閣の農商務相になるもの、直ぐに内閣が倒れ、枢密院に戻る。この年までに全国の道府県に日本赤十字の委員部が置かれた。最初の看護婦生徒卒業式。

日清戦争始・1894=72歳：<日清戦争>では、日本が戦時国際法の則って彼我の別無く戦傷者を救護することを決定、

日清戦争終・1895=73歳：大車輪の活動するも、日本赤十字社救護員の殉職も多く心労。功績で伯爵に叙せられ、

白馬会・ ・ ・ 1896=74歳：<三陸大津波>。初めての本格的な教科書「日本赤十字看護学教程」を刊行。この年までに、委員部が全て支部となり、日本赤十字の体制が確立した。

八幡製鉄始・1897=75歳：日本郵船と病院船についての契約を結ぶ。

子規国歌革新1898=76歳：看護婦の国際救護参加に対応すべく「日本赤十字社看護婦訓戒」を發布、

Bushidou・1899=77歳：イギリスに注文してあった初の病院船が完成。

ピアノ国産化・1900=78歳：早くも<北清事変>で国際救護が実現、好評を得た。

田中正造直訴1901=79歳：日本赤十字社条例が公布され、社団法人の認可を受けたが、

教科書疑獄・1902=80歳：妻が死去して間もなく、自らは老齡のため参列できなかった創立25周年祝典開催直後に、_没した。

吉川弘文館「日赤の創始者佐野常民」、「この人どんな人」、「没年日本史人物事典」、平凡社百科事典、「目でみる日本人物百科」、